

第131回 システム自然科学研究科セミナー 第41回 生物多様性研究センターセミナー

希少種の保全繁殖研究について

講師：木下こづえ 氏
(京都大学霊長類研究所 助教)

日時：平成28年3月17日(木) 午後4時～5時30分

場所：名古屋市立大学 滝子キャンパス 4号館3階 大講義室

<http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/location.html>

現在、地球上の多くの動物たちが絶滅の危機に瀕しており、IUCNのレッドリストにおいても、哺乳類の場合、現存する種のおよそ20%が「危急種(近い将来絶滅の危機がある)」以上のランクに分類されている。野生動物の絶滅を回避するためには、生息域内で保全されることが本道であるが、生息環境が保全に適さない環境にまで悪化している場合は、生息域外(動物園など)での保全が必要とされる。しかし、現実にはたとえ一つの種といえども、生息地の環境が回復して野生復帰が可能となるまで、飼育下の限られたスペースで遺伝的多様性を損なわずに一定の個体数を維持し続けるのは至難の業である。

これまで発表者は、飼育下での希少種の繁殖効率の向上を目指し、主に性ホルモン分析による雌の交配適期の予測や生殖細胞の保存および人工授精について研究を行ってきた。

本発表では、動物園での雌の繁殖生理のモニタリングに関する研究事例を基に、動物園での保全繁殖に関する取り組みを紹介したい。また、野生動物と動物園での飼育動物の両者を対象とした研究事例についても紹介し、野生下と飼育下(動物園)を融合した研究の可能性についても触れたいと思う。

問合せ先：片山詔久(名市大システム自然科学研究科、052-872-5853)

nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp